



工事が終わって竣工したとき、 苦勞も吹き飛びやり甲斐に変わる

～女性技術者座談会～

(一社) 情報通信エンジニアリング協会

はじめに

平成30年3月20日、電気通信設備工事現場で働く女性技術者、現場経験のある女性技術者13名、経験年数も職責も幅広いメンバーに集まっていただき(表1)、2グループに分かれて5テーマのディスカッ

ションを実施しました。

また、NTT東西からの来賓参加として、NTT東日本、NTTフィールドテクノから各1名の方にもご出席いただき、両社の女性活躍プロジェクトの取組みの紹介、開発品の

展示説明をいただくとともに、ディスカッションにも参加していただきました。

どのテーマもとても盛り上がり予定時間を超えて、積極的なディスカッションが行われましたが、紙面の関係から、その模様を一部抜粋してご紹介いたします。

表1 女性技術者交流会参加者一覧

| | 会社名 | 担当および役職 | 氏名 |
|----|--------------------------------|--|--------|
| 1 | 株式会社協和エクシオ | NTT事業本部 アクセスエンジニアリング本部 東京エンジニアリング部門 三鷹設備運営センター 故障修理担当 | 松田 祐理 |
| 2 | 株式会社ミライト | NTT事業本部 アクセス事業部 | 太田 佳奈 |
| 3 | 株式会社TOSYS | 新潟通信システム事業部 メンテナンス事業部門 | 高橋 歩 |
| 4 | NDS株式会社 | NTT事業本部 名古屋支店 エンジニアリング部 基盤担当 | 岸本 ほのか |
| 5 | シーキューブ株式会社 (株式会社フィット・クリエイト) | NTT事業グループ 愛知支店付 株式会社フィット・クリエイト 出向 | 溝延 舞 |
| 6 | 北陸電話工事株式会社 (株式会社テレコムサービス) | 設備事業本部 福井アクセス事業部 設計施工課 株式会社テレコムサービス 出向 | 竹内 智穂 |
| 7 | 株式会社ミライト・テクノロジーズ | NTT事業本部 東日本事業部 アクセス部 エンジニアリングG 所沢技術センター ユーザデスク担当 | 池田 真保 |
| 8 | 四国通建株式会社 | 通信設備本部 アクセス部 愛媛保守事務所 設備管理担当 | 近江 明加 |
| 9 | 西部電気工業株式会社 | ソリューションビジネス事業部 ICTビジネス部 積算・ITS担当 | 片平 彩 |
| 10 | 株式会社SYSKEN | 熊本支店 設備部 アクセス部門 サービス総合工事(ユーザ)担当 | 本田 幸代 |
| 11 | 大和電設工業株式会社 (株式会社シグマックス) | 酒田技術センター | 高橋 かれん |
| 12 | 株式会社TTK | NTT事業本部 宮城支店 アクセス工事センター | 芋田 香織 |
| 13 | 株式会社つうけん | 道東事業部 北見事業所 技術部 | 向舘 麻奈美 |
| 14 | 東日本電信電話株式会社 | ネットワーク事業推進本部 サービス運営部 アクセスマネジメント部門 アクセスマネジメント担当 | 赤沼 美紗子 |
| 15 | 株式会社NTTフィールドテクノ | 中国支店 広島営業所 広島フィールドサービスセンター フィールド担当 アクセス技術GP | 田中 鈴香 |

女性現場技術者のキャリアアップ、スキルアップ

高橋 現場に出ているときの知識を使って現場の修理者の支援や人員の手配などを行っているのですが、技術者として頑張っていきたいという考えと、いろいろな部署をOJTなどで転々としているので1つの分野の職人になりたいという気持ちと、やはり将来は結婚もしたいので、ずっと現場ばかりではなく内勤のほうもやらせてもらいたいという気持ちとで葛藤があります。

芋田 女性技術者のキャリアアップとなると、工事長や現場代理人などが最終型になるかと思うのですが、現場代理人や工事長になるために必要なことは、問題解決能力や交渉力など、会社の上の人から求められるものとは別に、現場の作業員に認められるようにならないといけないだろうと思っていて、どうやったら認められるようになるのかを、いまちょっと考えている最中です。

自分なりに出した答えは、さすがに自分1人で建柱作業や架渉作業などはできないので、そういうことは男の人に手伝ってもらうにしても、局内作業や引込・構内作業、現場トラブルの対応など、これなら自分で全部やれるという所を1つでも増やしていきたいという結論に辿り着きました。自分なりの得意分野を持つ

た上で現場作業員と接していくうちに、少しずつ工事長として認められていけばいいと……。

向館 キャリアアップとスキルアップについて、うちの会社でもそうなのですが、女子社員が目指すところが低すぎると私は思うのです。男の社員と何か変わるのかということ、私は変わるところはないと思っています。私が現場の施工管理を担当していた時は、いまみたいに優しい現場の人ではなくて、本当に職人さんみたいな人たちが多かった。

面と向かって、女に何ができる、女に何が分かる、お前なんかの言うことは聞かないと言われて、組んだ現場に行ってもらえなかったこともあって、いまはやっとここまで来られたかなというところなんです。今でも現場が分かっている、ちゃんと取り仕切ることができる人が各社にいると思うのですが、その人たちがいる間に、ここに参加している皆さんが立ちに行かないと、また次に進まないというのがあると思うのです。

私はいま北見でお世話になっていて、将来定年までそんなに期間がないのですが、北見事業所の所長になって北見に恩返しをしに帰ってきますというのが、いまの私の最終目標なので、皆さんみたいな人が早く



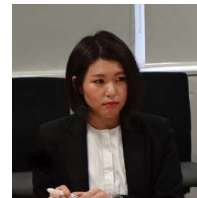
協和エクシオ・松田さん



ミライト・太田さん



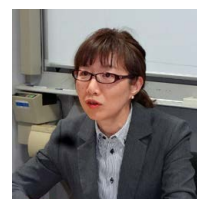
TOSYS・高橋さん



NDS・岸本さん



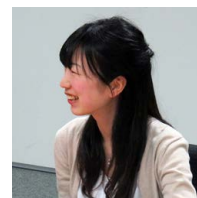
シーキューブ・溝延さん



北陸電話工事・竹内さん



ミライト・テクノロジーズ・池田さん



四国通建・近江さん



西部電気工業・片平さん



SYSKEN・本田さん



大和電設工業・高橋さん



TTK・芋田さん



つうけん・向館さん



NTT東日本・赤沼さん



NTTフィールドテクノ・田中さん



ディスカッションの様相 (グループディスカッション①-A)

現場代理人になって私を上を上げて
ください (笑)。

高橋 向館さんのあとで申し訳ない
ですが (笑)、キャリアアップに関
しては、まだ自分は代理人だとか管
理職だとか、そこまでの想像ができ
ていなくて、まず自分のいまやって
いる仕事、ビジネスホンですが、担
当が自分ともう1人しかいない中
で、もう1人の方が引退してしまう
と自分だけになってしまうので、い
まはどうしてもいっぱいばいばい
ですが、キャリアアップをちょっと考
えてみたら、ビジネスホンをやる
ときのリーダーみたいな存在になれた
らいいと考えています。スキルア
ップに関して、ビジネスホンにつ
いて知っている人がその人しかいな
いので、その人について回って、完
璧にとはならないだろうと思いま
すが、自分が満足いくまで技術を高
めていきたいと思っています。

田中 女性の管理職などはまだ少
なくて、いわゆる見本がないとい
う中で、いま手探りで進んでいる
状態です。

ただ、さっき向館さんがおっ
しゃったように、自分たちが切り開
いていけないといけないし、増えて
いけないと考えていて、少しずつ男
女の別は関係ないという考え方を
持った人が増えていけば、女性の
キャリアアップも進んでいくと思
うし、女性だから現場に残れない
とか、男性だから管理職に行く
とか現場に残れるとか、性別によ
って選択肢が違うというもおかし
いと思っ
ているので、会社全体として女性
の管理職が増えていくためには、
男女の垣根がなくなっていけばい
いのかと考えています。

溝延 現場に出たいかと言われる
と、正直な話、子どもがいるので
いつ呼び出されるかという不安の
ほうが、いまは大きいです。去年の4月

に復帰してきた時に、子供に何かあ
ると保育園から即電話がかかるとい
う感じで、だからいまは管理の業務
をやっている、正直な話は、内勤で
よかったというのがあります。

あと、周りの女性社員という
と、うちの会社は高校を卒業して入
る女性社員が多く、今年までで工業
系から何人か入社したのですが、残
っているのは数人です。みんなほと
んどユーザデスクだったり、設計だ
ったり内勤をやっている状態で、現
場で作業している女性社員はあまり
いません。いまは管理もやっている
状態であるなら、正直管理職にな
って上がっていききたいというのが
本音ではあります。

片平 まず、ずっと技術系でいく
のかどうかですが、今後の自分の
将来で結婚などを考えると、現場
に出て帰りがいつになるか分から
なかったり、土日も出たり、休み
がいつ取れるのかが分からないよ
うな業務になるのはちょっと……
と思っています。

芋田 自分がずっと現場でやり
たいかという質問には、現場作業
をしている時に、子どもが風邪引
いたので迎えに来てくださいとい
われると、周りに迷惑かけるな
という気持ちがあるので、子育て
の時期にはどうしても子どもを
優先せざるを得ないかな。個人
差はあると思いますが。

女の人は、子どもが小さいう
ちは物理的に現場に出るのが難し
いという側面があると思うので、
逆に結婚するまではずっと現場
にいてもいいのではないかと思
います。私がそうしたかったとい
うのもありますが、それができて、
あとは、子育てとかでブランク
があっても、前の経験と、あとは
規格書等を見ての知識で、「工事
長が女性だと嫌だな」という人
に対しても、接する中で自分の
経験や知識などを話していくうち

に、認めてもらえるようになる
のではないかと思います。

向館 正直いまでも現場に出
たいです (笑)。私は現場調査や
局内試験など、一般工事のいろ
いろなところを回ったのですが、
現場はトータル3年ぐらいで、
皆さんと違って、現在、ほぼ施
工はしていません。一般工事とな
ると確かに、体力の差で女の
人は厳しいですね。架空ケーブル
や地下ケーブルを引いたりとい
ったことは、器具もいろいろあ
りますし、男の人たちが人力で引
き張っているところを、女の
人たちがやるとしたら牽引車
を使えばいいだけです。どうに
もならないのが電柱建て替え
です。手掘りで掘り進めなければ
いけないので、それはどうにも
ならないからこれは女の人は無
理ですね。苦勞するところは多
いと思いません。SCの蓋が硬
いとか、バックルがなかなか縮
められなかったりとかする
のですが、ただ、体力で追いつ
けないところを何で補うかと言
ったら、これがあつたらできる。
こういうものがあつたら、3段
梯子の最後まで人力じゃ伸ば
せないけど、これがあつたら簡
単に上まで上がるといったこ
とは、体力が劣る女の人では
ない意見だと思うのです。力
がない、非力だからできない
ではなく、非力だから何を
使えばできるかという発想は
大事だと思います。

あと、現場は、どこの会社も
技術者の高齢化が問題だと思
うのです。若い子が入ってき
ても、すぐいなくなったり
する。40代の私から見ても、
いまは高齢の方しか現場の
人がいないので、女の人
が出したアイデアで生まれ
たものが、高齢の方たち
にも最適だったりするので、
大事だと思うのです。

女の人のほうが体力の衰え
なり何なりが先に来たり、
あと、結婚や出産などで
現場に出られなくなるこ
と

もあると思います。でも、現場で得た知識、経験というのは必ず自分の身になってプラスになる。マイナスになることはないと思うので、出られるかぎり出たほうがいいと思います。

太田 現場をこれからもやっていきたいか、ちょっと中途半端です。というのも、3年目以降はデスクに移るという流れですが、私自身、現場

をやるが多かったのが現場に出たいのもありますが、疲れやすいため、いま、理想としているのは設計をしながら繁忙期等、人手不足だったら現場に出るといような、オールラウンダーになればよいと思っています。現在現場に出ているのでその知識を今後も活かせたらと思います。

女性現場技術者が長く働き続けるためには

近江 女性が長く働き続けるためには、出産が1つの壁だと思います。育休から復帰しても子どもがいると毎日毎日残業というわけにはいかないと考えますし、子どもの体調不良で休んだり、突然早退することもあると思います。また、業務から1年以上離れることになるので、復帰しても業務についていけないのか不安に感じます。それらを考えると、周りに迷惑をかけてしまうのではないかと、働き続けていけるのだろうかとすごく悩んでしまいます。

自分なりにできるところでカバーしたり、勉強したりする努力が必要だと思うのですが、周りの理解やサポートがあるとより続けていきやすいのかなと思います。

松田 育休・産休がどれだけ取れるかということも大切だと思うのですが、私自身が不安なのは現場作業を

しているいま、育休・産休に入ると復帰したときに果たして休み前の状態に戻れるのかなと不安になります。1～2日休んだだけで、知らないことが増えていたり、新しく始める商品やサービスが結構あり、長期休暇後同じように働けるかと言ったらやっぱり働けないのかなと思います。また、現場に行く場合、短時間勤務は難しいのかなと思うこともあります。

勝手なイメージですが、施工管理や設計をされている方々はご自身の裁量で仕事を進めている人が多いように思います。そのため、育休・産休に入る前に自身の裁量で仕事をできる技術等を身につけることが大切だと思います。

片平 長く働き続けるためにはということなのですが、周りの人の理解とかサポートがあるのとないのとで



協和エクシオ・松田さん



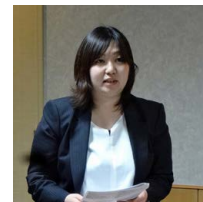
ミライト・太田さん



TOSYS・高橋さん



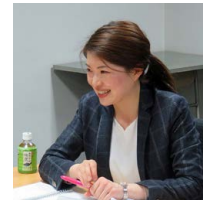
NDS・岸本さん



シーキューブ・溝延さん



北陸電話工事・竹内さん



ミライト・テクノロジーズ・池田さん



四国通建・近江さん



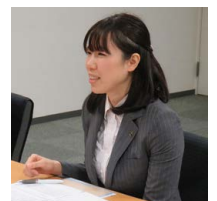
西部電気工業・片平さん



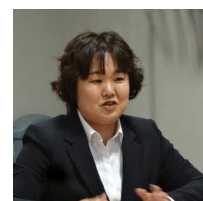
SYSKEN・本田さん



大和電設工業・高橋さん



TTK・芋田さん



つうけん・向舘さん



NTT東日本・赤沼さん



NTTフィールドテクノ・田中さん



ディスカッションの様相 (グループディスカッション①-B)

は、全然働く年数などが変わってくるのではないかと思います。親身になって「じゃあそれならどうしようか」というように言ってくれる人が周りに多くいれば、長く働けるのではないかなと思います。

高橋 長く働き続けるとともに、子育てとか出産があると思うのですが、それに備えて周りとの信頼とか、信用をうまく築けていけたら、こういうわけで育休をもらうのですがということで、仲間との信頼関係からうまく回してくれるのではないかなというのは感じています。ただ、自分のところは女性社員が初だったので、そういう経験がないのでちょっとまだ不安なところではあります。

太田 会社がサポートするのも大事なのですが、自分自身も早めに会社に予定を伝えて、会社自体も後釜のような、自分と同じ能力を持っている人の育成といいですか、いろいろ教え込んで、自分が復帰した時に、その子からも同じことを聞けるような後釜作りが重要になってくるのかなと思います。会社に全部おまかせするというのではなくて、自分でも何かできることをやっていけたらというふうに思います。

赤沼 私も、制度だけではなくて、働いている人にはいろいろな事情が

あるので、そこをそれぞれきちんと理解してもらえる信頼関係を周囲と築くことが重要なかなと思っています。

男性社員で家族の方に特別なケアをしなければいけない方がいらっしやったのですが、上司の方ときちんと信頼関係ができていたことでいろいろ相談でき、勤務地を考慮してもらえたりしていました。私の会社は異動も多い方なので、日ごろからそういったことを話しやすい環境の部署が増えていくとよいと思いましたが、もし自分が上司の立場になったら、制度だけではなくて、社員の方のいろいろな個人の状況などを話してもらえる環境を作らないといけないかなと思いました。

少し別の話になりますが、育児のために時短勤務を選んだ女性社員で、非常に効率的でスピーディーに働いている方がいらっしやいました。その方は短い勤務時間の中で働かなければならないという切迫感もあってか、生産性はとても高かったです。10時から16時までの勤務で、もちろん周りの方の理解がある職場ではありましたが、彼女自身の働きっぷりが周囲に認められていることも、こういった制度を気持ちよく使える理由の1つだなと感じました。

きることなら、そういうふうに工事の予定を組まなくてもすむように、ユーザ工事だけではなく、一般工事やアクセス工事でも稼働調整というか、NTTさんから受注する工事量を1日何件などで、施工班に対する工事数を相談して決めるとか、そういうことができれば一番いいのかなと思っています。

池田 稼働調整などでなるべく現場が焦らないように、というのが一番ですが、なかなか現実には難しく、今日調整したら明日が。月単位なので、現実的には難しいかなと思いますが。私が1つ意識していることがあって、女性だからというわけではないのですが、電話対応した時に、最後に一言声がけをするようにしています。「気をつけて」と短く、1秒程度ですが、声をかけるようにしています。それで意識してもらえたらいいかなと思って、内容を簡潔に「お気をつけて」とか、「焦らないで」とか、声がけをしています。

竹内 ヒューマンエラーは絶対なくならないと思いますし、数が多いのもそこだと思います。そこは人間の心から生まれるものなので、朝礼でも、私はサービスオーダー工事でお客様のところを回る現場の人と直接話すのですが、天候が悪い、例えば雨が強く降っている、風が強いとか。大雪でも無理してやらないように、現場の状況を聞き取りしたり、相談にちゃんと耳を傾けるといっていると、「気をつけて」というひと言は効くと思うのです。特に女子というのが効く。皆さんみたいな若い子は(笑)。

そこは女性の強みを生かして、お金がかからないところなので皆さんぜひ使ってください。

本田 昨年から2WAYといって、宅内工事でも道路横断と昇柱作業を実施する時は、現場から送られてき

現場の安全を高めるためには

芋田 うちの会社で安全に対して全社的にやっている取組みとしては、とにかくパトロールを行って、現場の人にはいつ誰が来るか分からないぞというような謎のプレッシャーをかけて(笑)、ここで危険行為をやっているのがバレてしまったらペナルティがあるかということ現場の気持ちの引き締めを図っています。そういう中でも、たまに危険行為が

パトロール中に見つかることはある状態なので、ほとんどの作業員が安全に対して気をつけている状態ですが、たまに出てしまう感じでした。

ヒューマンエラーが原因となって、死亡事故や転落事故などが起きるのだと思います。ヒューマンエラーの要因とは、次の工事があるから急がなければ、みたいな焦りなどが主だったものだと思うので、で

た写真をリアルタイムで確認しています。毎回その時の現場の状況を見ることで、雨の日だったら「足場がぬれているので気をつけてくださいね」とか、昇柱する時に「フックをちゃんと確認してください」とか、「無ロープ状態にならないように」というように、現場の人に直接第2の目で伝える体制を実施しています。

田中 私も物損事故の経験があり、仕事中に運転していてぶつけてしまっているのでは何とも言えないのですが、事故はどうしても起こってしまうし、焦ってしまうのが原因ということもあるので、さっき池田さんがおっしゃっていたように、一言声をかけるというのはとても有効だと思うし、それを広めていけたら良いと思います。

高橋 先ほど池田さんがおっしゃっていた、今日調整したら明日がという月単位のというのが、私は故障修理班なので、もうちょっとシビアで、その日の故障の対応はその日のうちに、お客さんがどうしても言ったら、その日のうちに行かないといけないので、「暗くなってきたから気をつけてね」とか、自分が現場に出ている時に、現場サポートのお姉さんたちから言われたら、「気をつけます」と、ちょっとうれしくなるとか（笑）。

あと、いまは自分がサポート役で

空き線を渡すとか、図面を出してこの柱登ってと言う立場になってからは、うちの上長もそういうところを気にする人なので、声かけてあげてねと言われて、夏とかは、「今日暑いからここ終わったら1回水飲んでね」などと言うようにしています。

個人的には、点検や指差し、KYなどは大事だと思うのですが、それより周囲の人とのコミュニケーションの方が大事だと思っています。例えば、空き線出しとかになると、誤切断とか誤接続になりがちですし、点検や指差し、KYなどは自己完結するものだと思うのですが、コミュニケーションというのは相手があって自分があるというもので、そこは大切にしたいと思っています。

竹内 コミュニケーションということですが、こういう大きな事故ではなくても、必要な情報が伝わっていないことによって事故やミスや障害につながるというのは絶対あるのです。自分の伝える情報に責任を持つというか、重いものに対しては最終地点にちゃんと伝わっているかどうかは確認するようにしています。最後の一手間、「ちゃんと聞いていますか？」と言う、それを惜しむとたいがいやらかします。

聞かなかったときに限ってあるのです（笑）。不思議ですね。忙しい



協和エクシオ・松田さん



ミライト・太田さん



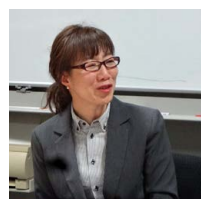
TOSYS・高橋さん



NDS・岸本さん



シーキューブ・溝延さん



北陸電話工事・竹内さん



ミライト・テクノロジーズ・池田さん



四国通建・近江さん



西部電気工業・片平さん



SYSKEN・本田さん



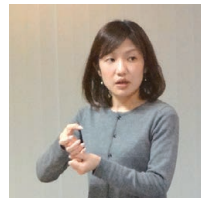
大和電設工業・高橋さん



TTK・芋田さん



つうけん・向館さん



NTT東日本・赤沼さん



NTTフィールドテクノ・田中さん



ディスカッションの様相（グループディスカッション②-A）

からいいかと思ったものに限ってあるのですよ。しかも、問題が大きくなってしまふ。

本田 現場に出ている人と、電話の声だけ知っている人が多くなってきますね。女性が少ない分、協力会社の方は私のことを知っていても、私は顔を知らないということはよくあります。なので、安全確認日の時など、協力会社の方が集まる時には挨拶に行くように心がけています。

田中 先ほど竹内さんもおっしゃられたように、確認するというのはすごく大事だなということを実感しています。当社ではいま外国から来た人がいて、日本に住んで長いのですが、国によっては常識が違っていたり、言葉の壁があるのを日々実感しています。本人は分かったつもりでも、私から見ると聞いていなかったのだろうなということがあって、何か伝えたあとにはもう1回復唱してもらおうとか、ちゃんと確認を取って、お互いに気持ちよく作業できるようにということを心がけています。

高橋 コミュニケーションに関しては、業務と関係ないところで声をかけて仲よくなるという作戦が私の中であって、朝、隣の人とかに「今日暑いですね」とか、髪切っていたら「髪切ったんですね」とか言って、ちょっと仲よくなってみて、そうすると仕事の話とかもしやすいかと思ひ声をかけたりしています。

竹内さんがおっしゃっていた、自分の伝えた情報に責任を持つというところ、すごくそうだなと思って、私もドキッとしました。ちゃんと聞いていますかと直接言うのは、私、勇気があるので、こんな感じでやってほしいのですが大丈夫ですかねとひと言声をかけてみようかと思ひます。

自分が思っている通りの答えが返ってこなかったり、返答に時間が

かかってしまうと、冬とか忙しい時には殺気立って、電話越しにすごく怒鳴る人もいて、電話を取る子がみんな怖がってしまふ、復唱できなかつたりすることがあります。事故が起きる原因になりそうだなと、びくびくしているというか、いつか事故が起きるのではないかと考えていて、こうした方がいいのではというアドバイスがあれば、ぜひ教えてほしいです。

池田 聞き取りづらい人とかと一緒に、何回も聞き返しちゃっていません、私は。早口だったりすると。「もう1度、もう1度お願いします。」「もう1度お願いします。」とすごく丁寧な口調で、伝わってないよという意思表示をして、小さなプレッシャーを与えています(笑)。向こうだつて何回も、もう1度お願いしますと言われたら、自分が言っていることが伝わっていないのだとか、この言い方じゃだめなんだと気づいてもらうしかないのかなと思って。私も日々言っているのですが、なかなか難しいですね。

芋田 逆に、仲よくなってみるというのもいいのかな。たぶん誰にでもそういう態度だと思うのですが、ちょっと好感を持ってもらうと、この人だったら聞いてもいいかなとか、そういうふうな。さっきコミュ

ニケーションして仲よくなるように心がけているみたいな話だったので、それを心の余裕がある時に(笑)。大丈夫な時に、ちょっと仲よくなってみるのも1つの手みたいな感じはします。

慣れている方や、現場のベテランに安全作業をするようにと声をかけるのは、結構難しいところもありますよね。「俺は大丈夫だ」という自信があるから、なかなか。どうすればいいのでしょうか。

高橋 自分より目上の人とか先輩に言うのは、私はちょっと苦手なところがあるので、もし先輩と組んで行ってそういうところがあったら、自分で解決できそうなら「それ、私がやっとなので」と、後輩がちゃんとやっているのだから自分もやらなきゃと思うかもしれないかなとか。後輩に対しては、自分のためにはやったほうが絶対いいよと言って、組んで行く時は絶対やらせるように。下を変えていこうという作戦です。

溝延 安全作業の注意なのですが、ストレートに言っています。いま言わないと、やってくれないという状況が続くので。それでも改善しなかったら、うちの上司を出して、指導をしてもらって作業をしてもらうという状況です。

女性現場技術者にとって、電気通信工事業界の魅力とは

松田 学生時代、部活で放送研究会に所属しており、インターネット放送をするために開通工事をしてもらいました。

その時の工事をしている姿が、かっこよかったと就職科で話したところ「じゃあ、ここの説明会に行ってみたら?」と紹介されたのが電気通信工事会社です。技術力が身に付くことや、説明会で見た電柱に登っ

ている姿が私にとっては魅力的に映りました。

太田 就職先がミライトに決まっていたのですが、実技的なものは未経験だったので不安はありましたが実際に現場に出たことで、やりがいがあったので、作業するのもよかったと思っています。現場の中で知識が身につく、プライベート

トで役立つことがありました。魅力でいえば、やりがいがあることと、プライベートでも使える知識が身に付く、ということだと思います。

高橋 この業界に入るきっかけは、手に職をつけたい、職人になりたいというところからで。工事でインターネットの開通だとか、故障修理で企業だけでなく一般のお宅にも訪問することがあるというのを聞いて、女性の一人暮らし、この春から女子大生になるという人の家におじさんが行くよりは私が行ったほうがいいんじゃないか、安心を届けられるのは私だけだと思って入ったので、そういうところが魅力かなと思っています。実際に、前に男性でちょっと怖い思いをした方とかの家に行った時は、女性でよかったと言われたので、この業界で頑張ろうと思いました。

岸本 魅力としては、昨年、電線共同溝の設計から施工までやらせていただいた時に思ったのですが、ちょっときれい事っぽいかもしれないですけど、電線共同溝で電柱がなくなることにより街がきれいになるわけで、そういう人の喜びとか、街の喜びにつながるのが魅力かなというのがあります。あと、変わってるねと言われるのが私的には結構褒め言葉だったりして、現場で私が立っていると、えっ？ 女の人？ みた

いな。そういう自分も好きだったりして、個人的にはそれも魅力です。

溝延 最初はライン系の工場に行きたかったというのが本音で、学校の先生たちにそそのかされたというのが結構あって。その先生に言われていまでも印象に残っているのは、女性にしかできないことがあるよって。それが、宅内でユーザ開通だったり、ほかの業務だったり、そういったことをやってみたらどうと言われて、職場体験に行っ、バケット車に乗せてもらったり、LAN作ったり、Wiiの設定をしたりした時に、この仕事、ちょっと楽しくなって思えて入社したんです。外に出さしてくださいと積極的に言っ、お客さんと触れて、ありがとう、感謝の言葉を言ってもらえるとうれしいなと思うし、アポイントを取る時も、お願いしますと言っくれる、感謝の言葉を伝えてもらえるのが魅力かなと思います。

竹内 私がこの会社に入社したのは電電公社からNTTに社名が変わって数年ぐらいの時です。なので、NTTのような大きな会社の仕事を受注するというのはとても大きかったです。私もここにいる皆さんと一緒に、OLさんって、自分の仕事としてはなんか違うなという思いがあっ、北陸電話工事という名前と、あと、安泰なのかなと、当時はいまよりも

強く思っていました。私が入ったころは携帯電話が普及する前だったので、皆さんや若い方はポケベルとかを知らないでしょうが、当時の電話業界はすごく魅力がありました。親も喜んでくれました。

池田 工事は絶対1人ではできなくて、たくさんの人と関わって作り上げるから、ほかの仕事より達成感があるんじゃないかと思います。あと、仕事内容が本当に多岐にわたっ、すごく広いので飽きないですね。自分でやろうと思えばどんどん勉強できるという環境が、すごく自分にはいいなと思いました。あとは、人情とかつながりを大切にす温かい人が多くて、忙しくても気にかけてくれて、自分の意見を言える上司がいるので毎日頑張れます。

近江 私は元々社会インフラに関わる仕事をしたという気持ちが強くあり、この業界に入りました。私たちの仕事は個人への通信回線の提供だけではなく、警察や消防の通信回線など、社会的に重要な機能にも関わっている仕事です。そんな風に社会全体を支えている1人になったと思うと、誇らしい気持ちになります。そこに魅力を感じる女性は私だけではないと思うし、社会インフラに関わる仕事のやり甲斐や格好よさは十分アピールできるポイントだと思います。

片平 普通に生活していたら、パソコンやスマートフォンといった通信デバイスなどは、どのようにつながっているか全然分からないじゃないですか。魔法のような、どうやっているか分からないけど、遠く離れた相手と電話ができる。どこからでもインターネットが利用できる。普通だったら絶対知らないようなこと、その一部に自分が携わって、ちょっとでも仕組みを知っているんだぞという優越感(笑)、普通の人には分



ディスカッションの様様 (グループディスカッション②-B)

からないようなことがちょっと分かるというのが魅力だと思います。

本田 私が小学6年生ぐらいの時にWindows95が出始めて、インターネットが瞬く間に広がった年でもあったのですが、その時からインターネット業界に興味を持ち始めて、結果SYSKENに入るようになりました。

魅力としては、新規開局の時など、まだ光ケーブルがないところに新しくケーブルを張って開通したりする時、この区間は私が関わったんだと密かに思えるところが魅力かなと思います。

高橋 最初NTTに入社しました。入社した理由としては、松田さんが言ったのと同じで、作業着を着たい、ヘルメットをかぶって電柱に登りたいということで入社したのですが、その後シグママックスに入りましたが、どちらもやっていて魅力を感じるのは、お客様と直接関わって、工事内容もそうですが、ほかの無駄話と言ってはなんですが、世間話が

できて、それも楽しいですし、施工が終わった時の達成感がとても魅力だと思います。

芋田 小学校の頃からインターネットが大好きで、そういうのを構築する会社がいいなと思って入ったというのが入社理由です。電柱に登るのは大変だし、マンホールの蓋開けられないし、苦労しながらやってきましたが、その中で、自分が携わった工事が終わって、この区間、私が関わったんだと思うと、近くを通るたびに誇らしい気持ちに勝手になったりして、そういうのが魅力なのかと思います。

あとは、宮城県は大震災があった

のですが、その時に、家などを流されて仮設住宅に入った人のところに復興工事でずっと行っていたのですが、電話がつながった時にすごくみんな喜んでくれたり、インターネットがつながった時に、うれしいと言ってもらったのが自分の中にずっと残っていて、すごいことをやっているんだなと思いながら仕事をしています。

向館 私も、工事が終わって竣工した時に、それまでの苦労も全部吹き飛ばしてしまうぐらいやり甲斐があるんじゃないかと思います。あと、皆さん電柱が好きということで(笑)、まとめにしたいと思います。

終わりに

年度末の多忙な時期にお集まりいただき、参加いただいた御本人、そして送り出していただいた職場の皆様、ご協力ありがとうございました。

情報通信エンジニアリング協会で

は、電気通信工事で活躍されている皆さんの言葉で仕事の魅力を語っていただく、このような場を設けることで、今後も電気通信建設業界の魅力を発信して参ります。



参加者集合写真